

令和5年度 夢風船 事業報告書

1 総括

令和2年度以降、コロナ禍における活動自粛がありながらも、作業活動や運動プログラム、行事など概ね順調に行えてきた。重点課題も平成29年度から継続して取り組むことで徐々に成果が出てきており、安定した事業が実施できている。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、利用者の不安感や職員の精神的負担も少しずつ和らいできているように感じるが、基礎疾患のある方もあり、職員のマスク着用、手洗い、消毒、換気、感染リスクの高いカラオケ、プール等の活動自粛等の感染対策は継続して実施した。コロナウイルスについては、感染者は出たものの、幸いにも事業所内での大きな集団感染は起きず、ほっとしているところである。昨年度後半から今年度前半にかけて職員の交代が多くあったが、新人職員の育成も概ね順調に進み、大きな影響は出なかった。

2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 : 20名
- 6) 利用現員 : 30名 (令和6年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員 (令和6年3月31日現在)
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 (常勤換算1.0)
 - 生活支援員 16名 (常勤換算14.1)
 - 看護職 1名 (常勤換算1.0)
 - 嘱託医 1名

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

5 実施事業 (活動内容)

- 1) 就労支援事業
 - ① 資源回収作業
 - ② 弁当箱配達回収作業
 - ③ 公園清掃受託作業
 - ④ シュレッダー作業
 - ⑤ PC入力作業
 - ⑥ 折紙製品作成事業
 - ⑦ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
 - ① 入浴（毎日）
 - ② 運動プログラム（ウォーキング・腹筋運動等）
 - ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
 - ④ 余暇支援事業
- 3) 行事等

4月	新社会人を祝う会
5月	運動会
6月	プラネタリウム鑑賞
7月	人形劇鑑賞
8月	川遊び
9月	風船バレーボール大会
10月	ブリヂストンイノベーションギャラリー見学
11月	一泊旅行（新潟県）
12月	バルーンショー観覧
1月	初詣、書初め
2月	遠足（多摩湖）
3月	遠足（東村山中央公園）

6 日 課

開所・送迎	8:30～9:00
朝礼・活動準備	9:00～10:00
健康チェック	
活動の確認	
活動	10:00～11:30
作業（資源回収作業／弁当配達回収作業／清掃作業／PC作業 等）	
作業（室内軽作業）	
運動プログラム	
入浴	
昼食・休憩	11:30～13:30
昼礼	13:30～13:35
活動	13:35～15:50
作業（資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業 等）	
作業（室内軽作業）	
運動プログラム	
入浴	
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

1 Fー

(1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場面を設ける。また、作業内容や方法等について、自ら考える場面を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

朝礼の司会の当番制や利用者自らの予定の報告等は、これまでの継続した取り組みにより定着している。令和3年度に提案があった法人ホームページの更新作業は順調に実施できているが、それ以降新たな提案等はない。

2 Fー

(1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

多くの利用者が概ね安定して活動ができており、他害、離接等で大きな事故には至っていない。個々の利用者の特性等についての理解が進み、不安等原因の解消と見守りによる事故の事前防止がある程度できている。ヒヤリハットの記録から不穏化の傾向分析など行っているが、不穏化の原因がわからないこともまだ多く、他害等の問題行動の完全な消失に至っていない。

1・2 F 共通ー

(1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

【成果と課題】

緊急時の午後4時以降の延長支援などのニーズに対して柔軟な対応を行っているほか、2名については後見人との連携により支援を行っている。利用者30名の内10名はGH入居者、1名は施設入所支援の利用者だが、GH入居者は年々増加傾向にあり、関係機関との連携の重要性が年々増してきている（現在のところ、関係機関との連携は良く取れている）。また、家族の高齢化、疾病等により家庭の介護機能が低下しているケースも増えており、今後地域の社会資源の活用等による生活基盤の再構築や整備が益々重要になってくると思われる。利用者1名が令和5年の1月から入院となっているが、退院後の地域生活のめどが立っていない（入院前は在宅だったが、本人の機能低下、家族の高齢化により、自宅での生活継続が困難となっている）。現在、相談支援事業所等と協力し、GH、医療介護体制の確保に取り組んでいるところである。

(2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動（作業）の開拓と支援

活動や生活場面において、自分で考える機会の保障や継続により生活能力や作業能力の向上を図る。また様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

【成果と課題】

作業の継続により、流れを理解し、自発的に作業に取り組むことは全般的に定着している。多くの利用者は利用開始後数年で継続力や集中力の向上が見られている。また、コミュニケーション能力、身辺自立、身体機能の維持向上のための取り組みなどは、利用者の状況に応じてその都度変更するなど丁寧に行ってきた。成果が見えにくい部分も多いが、学習による能力向上や機能低下の防止など等の効果が感じられる。日常の支援に追われることが多く、外部からの新規作業開拓は行えなかった。

(3) 健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルスの感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

【成果と課題】

- ① コロナウイルス感染症は5類となったが、手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用など基本的な感染対策は継続した。令和6年1月下旬に新型コロナウイルス感染症に4名（利用者2名、職員2名）が同時に感染することがあったが、重症者はなく、その後事業所内での感染拡大は起きていない。また、各家庭への情報提供は体調不良者がいた際も行っていたが、5類変更以降はコロナ感染者がいた場合のみに変更した。希望する利用者、職員に対して6月、11月に新型コロナウイルスのワクチン接種、11月にインフルエンザワクチンの接種を実施した。
- ② 毎日のバイタルチェック、入浴時の身体チェックによる健康管理や身体機能維持のためのリハビリ、また肥満防止、健康保持のためのウォーキングや腹筋運動等を継続的に実施している。肥満傾向のある方については、全般的に体重減少には至っていないが、増加は防止できているケースが多い。本年1月から12月までの体重と血圧の変動のグラフを各利用者に配布した。また、昨年度迄コロナウイルス感染症拡大のために休止していた利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。

2) 人材育成

- (1) リーダー層の育成
- (2) P D C Aサイクルの実施による利用者支援スキルの向上。
- (3) 職員間の連携協働体制の強化
- (4) 新人職員の育成

【成果と課題】

- (1) 日々の業務を通じて、職員の指導や事業管理の知識、スキル等に向上がみられる。
- (2) 日々のミーティングのケース検討の実施や、支援計画を意識した記録についての継続的な指導により、P D C Aサイクルの考え方は定着している。全般的に利用者との良い関係が築けており、支援スキルの標準化が進んでいる。
- (3) 職員間のコミュニケーションは良く取れており、連携協働については考え方が定着している。気づきという点では職員間の差はあるが、概ねチームワークが良く取れている。
- (4) 令和5年度は職員の交代が多い年となり、昨年度後半以降新規入職者5名となった。O J Tを中心に育成に取り組み、順調に業務の習得が進んでいる。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者20人を目標とし、利用者の安定通所を図る。(令和4年度実績1日平均利用者21.0人、30人在籍、通所率70.8%)

(具体的方策)

- ・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
 - ・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
- ② 職員配置数を維持し重度障害者支援加算の算定を継続する。
 - ③ 介護福祉士などの資格取得により福祉職員専門配置加算のランクアップを図る。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は22.16人(通所率72.6%)となり、目標を上回った。また、昨年度の実績も上回っている。長期欠席者3名(入院・在宅・施設入所)の内、入院と在宅の2名については利用再開のめどはたっておらず、施設入所者1名は入所施設の方針で退所となった(外部通所事業所利用停止)。給付費収入は1億190万円となった。
- ② 必要な配置は維持し、重度障害者支援加算の対象者15名の算定を継続した。
- ③ 介護福祉士、社会福祉士の試験合格者が2名あり、福祉専門職員配置加算が3から1にランクアップした。

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態を把握したほか、大幅な補正が必要な緊急的な支出も発生せず、概ね計画的な予算執行ができた。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

【成果と課題】

使用していない場所の消灯など節電意識は職員により差があり、徹底はしていない。備品購入については、伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられた。

8 その他の成果と課題

- 1) 療養介護施設入居者1名の月1回の体験受け入れは、新型コロナウイルス感染症に対する入居先の施設の方針により令和2年3月を最後に実施できていない。
- 2) 令和2年度以降、体調不良等での職員の突発的な休みが多いことが続いている。4年度後半から、今年度当初にかけてやや状況が改善したが、夏から秋にかけて再び休みが増え、日常の支援体制に苦慮することが多かった。

9 事故等報告

特になし

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 242日間(前年度 242日)

(4) 平均活動時間 7時間

1.1 利用状況

- 1) 利用者延人員 5,363人(前年度 5,086人)
- 2) 1日平均利用人員 22.2人(前年度 21.0人)
- 3) 体験実習者延人員 5人(前年度 16人)
- 4) 1日平均実習人員 0.02人(前年度 0.07人)
- 5) 実習者実人員 4人(前年度 6人)

1.2 利用者状況(令和6年3月31日現在)

1) 年齢

- 10歳以上20歳未満 1名
- 20歳以上30歳未満 17名
- 30歳以上40歳未満 3名
- 40歳以上50歳未満 5名
- 50歳以上60歳未満 3名
- 60歳以上 1名

2) 障害の状況

- 愛の手帳1度 1名(内身障手帳所持 1名)
- 愛の手帳2度 21名(内身障手帳所持 4名)
- 愛の手帳3度 2名(内身障手帳所持 2名)
- 愛の手帳4度 2名(内身障手帳所持 1名)
- 身体障害者手帳1級 5名(内愛の手帳所持 2名)
- 身体障害者手帳2級 6名(内愛の手帳所持 5名)
- 身体障害者手帳3級 1名(内愛の手帳所持 1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5.4(前年度 5.4)

- 3) 通所手段 送迎車利用 28名(内家族送迎併用 1名)
家族送迎 2名(内送迎車併用 1名)
※ 1名利用実績なし

- 4) 居住状況 管内居住 20名 管外居住 10名

- 5) 性別 男性 23名 女性 7名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 3,881円 日給 : 243円
(前年度1人 月額 : 4,590円 日給 : 291円)

1.4 余暇支援実習状況

- 1) 参加者 実19名 延べ439人(令和4年度実績 実19名 延べ329人)
- 2) 延実施回数 : 137回 (令和4年度実績118回)

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4月	: 11回	34人
	5月	: 13回	38人
	6月	: 12回	40人

7月	:	13回	39人
8月	:	14回	39人
9月	:	13回	41人
10月	:	12回	38人
11月	:	8回	31人
12月	:	11回	39人
1月	:	8回	34人
2月	:	9回	27人
3月	:	13回	39人
合計		137回	439人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数	(令和4年度実績)
	入浴	11回	11人	(10回 8人)
	散歩	15回	23人	(6回 7人)
	ドライブ	27回	83人	(34回 74人)
	ボウリング	30回	131人	(28回 105人)
	調理	24回	110人	(26回 97人)
	食事	1回	1人	(0回 0人)
	ゲームセンター	11回	36人	(2回 7人)
	散髪	6回	19人	(6回 21人)
	スイカ割り	1回	9人	(1回 4人)
	DVD動画鑑賞	11回	16人	(2回 3人)
	合計	137回	439人	(118回 329人)

15 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

16 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。